

## 『アムステルダム物語～杭の上の街～』

ヘルマン・ヤンセ著、堀川幹夫訳／鹿島出版会

私は昨年1年弱の間、オランダに滞在していたので、オランダに対する愛着が深い。オランダの家屋や教会はレンガでできているので、街全体が赤茶色をしていて可愛らしい。これは隣国のベルギーやドイツのように自国内で石材が取れないためであるが、それがかえて独特な景観を創出している。郊外に出れば、延々と牧場が広がり、牛や羊が悠々としている。オランダはどこに行っても美しい。天才を育むには美しい環境が欠かせないと言われるが、オランダならばその条件を十二分に満たすであろう。実際、ファンデルワールス力を発見したファンデルワールス、ローレンツ力のヘンドリック・ローレンツなど、稀代の天才には事欠かない。

「神は世界を創ったが、オランダはオランダ人が創った。」と言われるとおり、オランダは実に国土の1/3以上が海拔下にあり、干拓によって国土を切り開いた歴史を持っている。干拓とは堤防や土手で区切られた土地から余分な水を排水することで土地を造成する方法である。かつては風車を原動力として排水が行われていたが、現在では電気や石油で動くポンプが使用されている。これら海拔下の土地には絶えず水が流入するので、人間の管理が滞れば即座に水没してしまう。わが国では人間が何もしなくても土地は存続することを考えると、大違いである。そのような環境では、「家を継ぐ」とか「土地を守る」とかいった日本的な気質は生まれにくい。その代わりに不断の努力を惜しまない強靱の意志や、開拓精神が養われるようである。

オランダは九州と同じくらいの広さしかないが、ポルダーや高潮のための堤防の総延長は7000kmにも及ぶ。最近では地球温暖化による海面上昇に対して、堤防の高さを嵩上げするか否かという議論が真剣に行われている。もし国内すべての堤防を2m高くすると70兆円という費用が必要になると試算されている。先進国とはいっても、人口1000万人の国に対して、この金額は天文学的な数字である。このような事情があるので、オランダ国内では土木建設技術者、特に堤防や治水を司る地盤工学・水工学の技術者・研究者は非常に尊敬されている。当然である。彼らがいなくなれば、速やかに国土の1/3が消滅するのだから。オランダに限らずとも、文明社会に住まう限り、土木建設技術者の存在は必須である。彼らが担

---

うインフラストラクチャーの整備と維持管理は、文明生活の大前提であるからである。

杭を使う技術もオランダの専売特許といってよいだろう。オランダの国土の大半は厚い泥炭層に覆われている。この地層は非常に軟らかく、圧密沈下しやすいので、地盤改良などしないで家を建てると100%家が傾く。これを避けるため、1000年以上前から地中に木の杭を打ち、その上に建物を建てるというやり方が行われてきた。10世紀頃は、杭の長さが一律2mと短かったので、重量の大きな教会などを建てるとしばしば傾いたりした。その一例はデルフト市の旧教会であり、これは今日でも傾いたままの姿を見ることができる。アムステルダムの場合、泥炭層の厚さは10mにも及ぶので街中の建物の下にはそれ相応の杭が打たれている。これが本書の副題「杭の上の街」の所以である。

本書『アムステルダム物語～杭の上の街～』では、アムステルダムという街が形成された歴史的経緯や街の中に建てられた家々の建造技術が細部に至るまで叙述されている。著者自身により描かれた挿絵がふんだんに盛り込まれているので、視覚的に理解しやすい。絵の脇には住所が掲載されているので、本書を持ちながらアムステルダム観光をすると良質なガイドブックとしても重宝する。

というわけで、アムステルダムを訪れることがあれば、飾り窓やコーヒーショップといった歓楽施設だけでなく、家々のちょっとしたディテールを楽しむこともお勧めしたい。

## 執筆者紹介

田中 泰司

環境・建設系助教。専門領域は、コンクリート工学。

---

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格  
『アムステルダム物語 杭の上の街』 ヘルマン・ヤンセ文+イラスト (堀川幹夫)  
鹿島出版会 2002年 2,310円

ブックガイド目次へ